

「8日間の旅」

2014年06月11日

牧師在任中は、教会を長期間空けることができませんでした。が、隠退して、時間が自由に取れるようになりました。訪ねたい人、行ってみたい所を8日間かけて、夫婦で旅をしてきました。私たちにとって、楽しく有意義な旅でしたので、書きたいと思います。

① 岡山県 倉敷市。神学生の時、帰郷の途中、大原美術館に立ち寄り、エル・グレコの「受胎告知」と棟方志功の版画に感激した。もう一度観たいと思い、美術館に行った。棟方志功の命を賛歌する力強い作品に感銘を受けた。イタリアは芸術家が残した作品が世界中から観光客を呼び寄せている。スケールは違うが、大原美術館が人々を招き寄せている。倉敷の町並みを歩いて楽しんだ。

② 山口市。同じ高校の2年後輩で、長い付き合いをしてきた友人を訪ねた。ザビエル記念聖堂、瑠璃光寺、津和野を案内してくれた。瑠璃光寺の優美な五重の塔に魅せられた。

③ 大分県 杵築市。私を信仰に導いてくださった母教会の吉新治夫牧師を訪ねた。先生は足を骨折し、認知症が進み、ホームに入居しておられる。今回の旅の最大の目的は、お見舞いに行くことであった。ホームに行ってお会いし、先生の導きで牧師になり、47年間、牧師を務め、3月に隠退しましたと感謝を述べた。一言「もったいない」と言われた。私のことを十分に理解され、お別れの時は、手を固く握りしめてくださった。初めてお会いした時は、30歳くらいの若い牧師であった。今は自由に口が利けない。内心、寂しく思ったが、誰もが通っていく道であろう。

④ 大分県 臼杵市。有名な石仏を初めて観た。奈良、平安時代に岩に掘った仏像は荒々しく、素朴で、見ごたえのする姿であった。

⑤ 宮崎県 延岡市。私が8年間、奉仕した「延岡三つ瀬教会」を訪ねた。親しくしていた方が、亡くなられ、奥様の弔問に行った。本当に仲の良いご夫妻で、夫を亡くした悲しみを体中で受けとめていた。聖書を読み、共に祈り、友人の生と死を記念した。延岡を去って、35年が経つが、皆さん、懐かしがって、思い出話を交わした。

⑥ 宮崎市。出産時の事故で、障がいを負った、教会学校の生徒であった人を訪ねた。55歳になり、障がい者や認知症になった人々と共同生活をしている。彼は「苦しみ、悲しみが多い」と率直に言われる。社会に出て、過ごせない自分がやるせないのである。二人で祈ってお別れした。

⑦ 広島市。広島平和記念資料館に行った。広島は何十回と通ったが、一度も降りたことがなかった。原爆被害については、様々な形で知らされていたが、生々しい資料を見て、改めて恐怖を感じた。世界の指導者はまず、記念資料館を訪ねて、政治に関わってほしいと思う。原爆保有国が大きな発言力を持つ不条理がまかり通っている。電力会社は原発を作れば作るほど儲ける構造にあるが、日本は「いつでも原爆を作れるぞ、持てるぞ」と言おうとしているのが、狙いではないか。神学校の一年後輩の盛谷裕三牧師に会い、今年献堂した教会を見せてもらい、市内を案内してもらった。

⑧ 愛媛県 今治市。若い夫妻が町おこしを目指して、瀬戸内海の大三島（おおみしま）に行き、みかん作りをしている。まだ、十分に生活できる状況に至っていないが、様々な工夫をしながら、やりがいを持って、元気に働いている姿を見て、頼もしく思った。